

実践報告

第7回学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設 合同セミナー実践報告

平上尚吾¹⁾、塚越累¹⁾、藤岡宏幸¹⁾、川口浩太郎¹⁾、曾田幸一朗²⁾、
打田明²⁾、三島淳一²⁾、萩野智之³⁾、道免和久⁴⁾

1) 兵庫医療大学リハビリテーション学部、2) 兵庫医科大学病院リハビリテーション部、
3) 兵庫医科大学ささやま医療センターリハビリテーション室、4) 兵庫医科大学リハビリテーション医学教室

The Practice Report: Annual Seminar on Rehabilitation Medicine of the Hyogo College of
Medicine Educational Foundation

Shogo HIRAGAMI¹⁾, Rui TSUKAGOSHI¹⁾, Hiroyuki FUJIOKA¹⁾,
Kotaro KAWAGUCHI¹⁾, Koichiro SOTA²⁾, Akira UCHIDA²⁾,
Jyunichi MISHIMA²⁾, Tomoyuki OGINO³⁾, Kazuhisa DOMEN⁴⁾

1) School of Rehabilitation, Hyogo University of Health Sciences
2) Department of Rehabilitation, Hyogo College of Medicine Hospital
3) Department of Rehabilitation, Hyogo College of Medicine Sasayama Medical Center
4) Department of Rehabilitation Medicine, Hyogo College of Medicine

抄 録

「第7回学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設合同セミナー」が平成28年8月27日に兵庫医療大学で開催された。合同セミナーは、学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設の情報共有と相互研鑽を図ることを目的として、平成22年度から毎年度開催されている。合同セミナーには、学校法人兵庫医科大学でリハビリテーション医療に関わる医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などを中心に、学生も含め法人内外から200名を超える医療専門職者が参加した。合同セミナーでは、最先端のリハビリテーションに関する特別講演と各施設で実施している研究や症例報告などの一般講演が行われ、リハビリテーション医療について活発な意見交換がなされた。合同セミナーを通じて、学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設の連携の成果が着実に表れており、今後もリハビリテーション医療の発展のために、診療・研究・教育に関わる我々教職員が一丸となる必要性を再認識した。

キーワード：学校法人兵庫医科大学、リハビリテーション、セミナー、実践報告

Abstract

The 7th annual seminar on Rehabilitation Medicine of the Hyogo College of Medicine Educational Foundation was held on August 27, 2016, at Hyogo University of Health Sciences. This seminar

has been held since 2011 in order to promote cooperation and collaboration in the rehabilitation medical sciences across the Department of Rehabilitation Medicine of Hyogo College of Medicine, the Department of Rehabilitation of Hyogo College of Medicine Hospital, the Department of Rehabilitation of Hyogo College of Medicine at the Sasayama Medical Center, and the School of Rehabilitation of Hyogo University of Health Sciences. More than 200 medical professionals, including physicians, physical therapists, occupational therapists, speech therapists, and students, participated in the 7th annual seminar. Through the seminar, the result of our collaboration was shown, and we reconfirmed the necessity of the collaboration between the institutes. Here, we present the proceedings of the 7th annual seminar of Rehabilitation Medicine of the Hyogo College of Medicine Educational Foundation and future plans for the seminar.

Key words : Hyogo College of Medicine Educational Foundation, Rehabilitation, Seminar, Practice Report

I はじめに

「学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設合同セミナー」(以下、合同セミナー)は、兵庫医療大学リハビリテーション学部一期生が卒業を迎えた平成22年度に初めて開催され、今回で7回目を迎えた。合同セミナーは、リハビリテーション医学の拠点である兵庫医科大学リハビリテーション医学教室をはじめとして、兵庫医科大学病院リハビリテーション部、兵庫医科大学ささやま医療センターリハビリテーション室、そして理学療法士・作業療法士を養成する兵庫医療大学リハビリテーション学部が共同して、診療・研究・教育の三本柱をより強固にし、質の高いリハビリテーション医療を推進することを目的として開催されている。第7回合同セミナーには例年通り、学校法人兵庫医科大学内にとどまらず、学校法人兵庫医科大学連携病院や兵庫医療大学リハビリテーション学部の実習施設などから200名を超える参加があり、活発な意見交換がなされた。

本報告では、第7回合同セミナーの開催内容と今後の展望などについて述べる。

II 第7回合同セミナー

第7回合同セミナーは平成28年8月27日(土曜日)に兵庫医療大学オクタホールで行われた。プログラムを資料1、合同セミナーの様子を図1、図2に示す。

特別講演

藤田保健衛生大学の統括副学長・教授の才藤栄一先生をお招きして「リハビリテーション医学最前線 -

FHURが考えていること - 」と題した特別講演を開催した。講演では、藤田保健衛生大学のリハビリテーション部門の組織やシステムについて、最先端の摂食嚥下リハビリテーションおよびロボットを用いたリハビリテーションプロジェクト、さらにはロボット等を取り入れた独自の地域包括ケアシステムについて示して頂いた。講演後の質疑応答では、退院後の遠隔リハビ



図1. 特別講演



図2. 合同セミナー風景

プログラム

平成 28 年 8 月 27 日 (土) 14:00~17:40

会場：兵庫医療大学オクタホール

司会：萩野 智之 (ささやま医療センターリハビリテーション室)

1. 開会の挨拶 14:00~14:05

2. 法人代表挨拶 14:05~14:10

3. 特別講演 14:10~15:10

座長：兵庫医科大学リハビリテーション医学教室 主任教授 道免 和久

テーマ：「リハビリテーション医学最前線・FHURが考えていること」

講師：藤田保健衛生大学統括副学長

藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学 I 講座教授

才藤 栄一 先生

(休憩 15:10~15:20)

4. 一般講演 1 15:20~16:20

演題1 兵庫医科大学病院リハビリテーション部 曾田 幸一朗

「パーキンソン病患者に対するバランス練習アシストロボット(BEAR)の効果」

演題2 兵庫医療大学リハビリテーション学部 永井 宏達

「包括的運動支援システムの構築による新たな介護予防プログラムの開発」

演題3 ささやま医療センターリハビリテーション科 内山 侑紀

「当院における回復期脳卒中患者に対するGEAR訓練の効果」

(休憩 16:20~16:30)

5. 一般講演 2: 16:30~17:30

演題1 兵庫医科大学病院リハビリテーション部 斎藤 翔太

「パーキンソン病患者における最大舌圧と嚥下動態との関連」

演題2 兵庫医療大学リハビリテーション学部 坂本 浩

「統合失調症患者の主観的ウェルビーイングに対する社会生活技能訓練の影響について」

演題3 ささやま医療センターリハビリテーション室 大六 鉄兵

「胸髄損傷後に多発性脳神経麻痺を併発し、重複症状にて難渋した嚥下障害の一例」

6. 閉会の挨拶 17:30~17:40

資料1. プログラム

リテーションの方法や臨床・研究・教育をリンクさせるためには臨床が基軸になるなどの示唆を頂いた。

一般講演

一般講演は兵庫医科大学リハビリテーション部、ささやま医療センターリハビリテーション室および兵庫医療大学リハビリテーション学部からそれぞれ2演題の発表が行われた。

兵庫医科大学病院リハビリテーション部からは、パーキンソン病患者に対するバランス練習としてアシストロボットを用いた研究と、パーキンソン病患者の嚥下と舌圧との関連に関する研究が紹介された。

ささやま医療センターリハビリテーション室からは、脳卒中片麻痺患者に対する歩行練習としてアシストロボットを用いた研究と、胸髄損傷後に多発性脳神経麻痺を併発し嚥下障害を呈した患者の症例報告が行われた。

兵庫医療大学リハビリテーション学部からは、法人内での共同研究である包括的運動支援システムを用いた新たな介護予防プログラムに関する研究と、統合失調症患者のウェルビーイングに対する社会生活技能訓練の影響に関する研究が紹介された。

いずれの講演においても、活発な質疑応答がなされていた。また、講演以外の時間にも、参加者各々が日頃の臨床実践や臨床研究、あるいは教育等についての情報交換を行っており、有意義な議論が交わされていた。

Ⅲ 参加状況

参加者は208名であった。参加者の内訳は、学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連スタッフ、学校法人兵庫医科大学三施設教職員、学校法人兵庫医科大学連携病院の会リハビリテーションスタッフ、兵庫医療大学リハビリテーション学部実習施設および卒業生の勤務する施設、兵庫医療大学学生などであった。さらに、太城力良学校法人兵庫医科大学副理事長をはじめとする理事の方々、馬場明道兵庫医療大学学長など役職者の方にもご参加頂いた。

Ⅳ 今後の展望

今回で7回目を迎えた合同セミナーでは、例年通り、学校法人兵庫医科大学内の教職員・学生に加え、関連施設や周辺施設から多数の参加者があり、講演内外で

活発で発展的な議論が交わされた。

今回、特別講演における藤田保健衛生大学の統括副学長・教授の才藤栄一先生によるリハビリテーション部門の体制やシステム、および最先端のリハビリテーション医療等に関する講演は本法人の診療および研究にとって大いに参考になるものであった。また、一般講演の中には、近年着目されているロボットを用いた研究をはじめ、兵庫医科大学、ささやま医療センター、および兵庫医療大学との共同研究、さらには兵庫医科大学病院に勤務しながら兵庫医療大学大学院医療科学研究科に進学して実施した研究が含まれていた。このように、今回の合同セミナーでは先進的・実践的な研究の成果とともに、兵庫医科大学リハビリテーション医学教室、兵庫医科大学病院リハビリテーション部、ささやま医療センターリハビリテーション室および兵庫医療大学リハビリテーション学部・医療科学研究科における連携の成果が着実に表れており、学校法人兵庫医科大学内リハビリテーション関連施設のさらなる発展のきっかけになる合同セミナーとなったと考える。

今後も引き続き、学校法人兵庫医科大学内リハビリテーション関連施設の教職員が一丸となり、臨床を基盤とし共同研究を含めた臨床研究を通じて、3施設の「診療・研究」をより強固なものにするとともに、臨床実習をはじめとする「教育」においても具体的な発展に繋げていくことが重要であると考えられる。

謝辞

このたび、第7回合同セミナー実践報告をまとめるに当たり、ご協力を頂いた兵庫医科大学リハビリテーション医学教室、兵庫医科大学リハビリテーション部、兵庫医科大学ささやま医療センターリハビリテーション室および兵庫医科大学リハビリテーション学部のスタッフの皆様に深謝いたします。